

総務厚生常任委員会

3年間で3万5000人超の利用者

9月8日に委員会が開催され、4年目を迎えた白鷹町子育て支援センター「にこぽーと」を視察し説明を受けた。

子どもの健やかな成長を願い、利用しやすい環境づくり

年間1万人超の利用者

◇25年度から社会福祉協議会に運営を委託。利用者は主に未就学児とその保護者。床暖房完備や日曜日の利用が可能なことなどから年間1万人を超える利用がある。長井、飯豊、朝日など近隣市町村からの利用者もある。

施設長 保育士で随時対応している。町の保健師も入っている。にこぽーとの職員だけの感覚にならないように連携している。

委員 日曜日の利用状況と今後の課題は。

施設長 土曜日は閉館で日曜日はファミリーサポート会員の協力で実施している。普段より利用者は少ない。今のところ問題はないが、いざという時の責任の所在が今後の課題である。

子育て相談は
委員 子育ての悩み相談やアドバイスは行っているのか。



にこぽーとで楽しく子育て

介護予防教室が来年からコミセンで

介護予防・日常生活支援総合事業について説明を受け、「八乙女げんき塾」を視察した。

いつまでも元気に暮らすために

◇介護予防・日常生活支援総合事業は町の介護保険条例で平成29年4月1日から始まることと決定している。コミセン単位で介護予防教室を実施する。

質疑

何が変わるのか

委員 事業の移行でげんき塾の利用者にとって何が変わるのか。

当局 現在の利用者には変更はない。新事業では65歳以上が介護予防教室に通う。身近なコミセン単位で運動機能強化などを行う。



笑いは健康のもと（八乙女げんき塾）

コミセンの活動に任せるのか

委員 事業はコミセンの活動に任せるという形になるのか。

当局 介護予防教室は町主催でコミセンの会場を借りる形が1年目。2年目からは自主的にコミセンの活動にしていく。蚕桑地区ですすでにモデル事業を行い、10月からコミセンの活動として行う。

指導者は

委員 モデル事業の指導者は町からか。

当局 モデル事業では天童のスポーツクラブに委託したが、来年度以降はRO＊KUにお願いする。

その他

○まちづくり座談会の実施状況

○地方創生先行型交付金事業の実施状況
などについて説明があった。